毎月第３日曜日発行

2026 10月号 Vol.203

湖東・湖北

毎日ナビ

毎日新聞湖北ブロック会　協賛
湖北ブロック会事務局（毎日新聞彦根城東販売所）
滋賀県彦根市地蔵町 120-105　TEL.0749-26-9673
制作／オフィスいしやま（毎日新聞大津販売）
発行／毎日新聞社大阪販売三部

湖　東

彦根

ひこにゃんと税金学ぼう
納税協 絵本製作、彦根市に200冊寄贈


彦根納税協会青年部から贈られた絵本を手にするひこにゃん

税金の役割を学ぶ絵本「ひこにゃんえほん～とくべつへん～」が9月15日、彦根市に寄贈された。ひこにゃんの原作者、もへろんさんの協力で今年初めに完成したデジタル版（画像25点）が国税庁ホームページで公開されているが、公益社団法人・彦根納税協会青年部（土沢誠部会長）が紙でも親しんでもらおうと200冊を製本した。

副題は「よいにゃんことみんなのおこめのおはなし」。城に住む白い猫と殿様が街を巡回中、道に穴が開いているを見つけ、年貢米を大工に渡して補修してもらう。しかしある日、城の蔵から米がすべて盗まれ、猫がひこにゃんに変身。米を盗んだ「わるにゃんこ将軍」を探し出す――といった内容だ。

建材会社を経営する土沢部会長は「親しみのあるキャラクターが租税教育に役立てば」と述べ、200冊を市に贈った。【彦根通信部・伊藤信司】

（毎日新聞9月18日）

湖　北

長浜

最高賞に大野さんら
市美術展覧会 6部門受賞作決まる

「第78回長浜市美術展覧会」（毎日新聞大津支局など後援）の受賞作が発表された。日本画、写真、工芸、洋画、書、彫刻の6部門に出品された計233点の中から市展賞（市長賞）6点、県芸術文化祭奨励賞1点、特選28点、佳作29点、入選145点が選ばれた。

各部門の最高賞である市展賞には、日本画＝長浜市平方町、大野里美さんの「蓮池」▽写真＝同市曽根町、中川峰子さんの「小宇宙」▽工芸＝同市木之本町木之本、佃真吾さんの「栗ノ櫃」▽洋画＝同市高月町落川、野村厚子さんの「湖北の春（今津）」▽書＝同市公園町、重田乃胡さんの「熱狂」▽彫刻＝同市木之本町千田、林亜希子さんの「蔵守」――が輝いた。特選のうち、毎日新聞社賞には書部門の同市東上坂町、武田仁美さんの「有明の月」が選ばれた。【長浜通信部・長谷川隆広】

（毎日新聞9月4日）


長浜市美術展覧会で市展賞（日本画）に輝いた大野里美さんの「蓮池」＝長浜市提供

ドイツ視察を市に報告
青年使節団　見聞広める

長浜

長浜市の姉妹都市、ドイツ南部のアウクスブルク市を訪問した市の青年使節団5人が帰国し、そのうち4人が9月18日、視察結果を浅見宣義市長に報告した。公募で選ばれた19～22歳の団員5人が8月29日～9月7日の10日間滞在した。5人はそれぞれ現地でホームステイし、ホストファミリーと交流。16世紀に建てられた世界最古の社会福祉住宅「フッゲライ」を見学したり、民族衣装「ディアンドル」などを試着したりして見聞を広めた。報告会では、食品に関心を持つ団員がスーパーマーケットで扱っているオーガニック食品の多さに驚いた経験を紹介。社会行動の違いに注目していたという団員は「大学卒業後に職業訓練を受けてから仕事に就くことが日本と違って印象深かった」と振り返った。【長浜通信部・長谷川隆広】

（毎日新聞9月25日）



浅見宣義市長（中央）に活動を報告した団員たち

バリアフリー探る 山かごで登城
市が実験　訪れやすい場所に

彦根

国宝・彦根城（彦根市金亀町）のバリアフリー化を進めようと、市は山かごを使った登城の実証実験に取り組む。世界文化遺産登録に向け、「身体障害者に優しいお城」もアピールしたい考えだ。

備中松山城のある岡山県高梁市から重さ17キロのアルミ製かご（座面幅65センチ、長さ85センチ、高さ110センチ）を借用。10月19日に足の不自由な児童を乗せ、表門山道―天秤櫓（てんびんやぐら）―太鼓門櫓―本丸（天守前広場）へと登る。

ルートの高低差は約50メートルで、140ほどの石段を登る必要がある。障害者団体からの要望を受け今年5月、車椅子に補助具を付けて登る実験もしたが、石段への影響が課題だった。田島一成市長は「誰もが本丸を目指せる新たな方法を検証したい。江戸時代を追体験する観光ツールにもなれば」と期待を寄せた。【彦根通信部・伊藤信司】

（毎日新聞9月29日）


実証実験用の山かごを担ぐ田島市長（左）ら